3-3-2　都市の繁栄と元禄文化

三都の繁栄

＊毛利家文庫　58絵図164「摂州大坂大絵図」

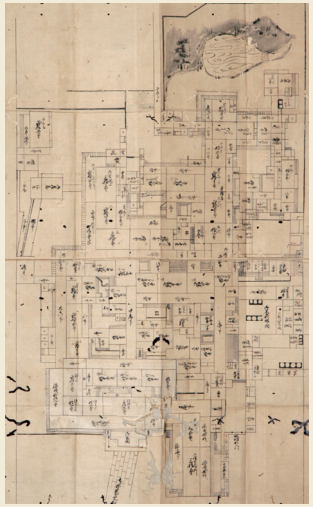
解　説

元禄のころ（17世紀末）から，江戸・大阪・京都のいわゆる三都が大きく発展しました。

将軍のお膝元・江戸には諸藩の屋敷が置かれ，18世紀初めには人口100万人の大都市となりました。

大阪は全国の金融や商業の中心地として「天下の台所」と呼ばれ，諸藩は蔵屋敷を置いて年貢米や特産物を売りさばきました。

写真左の絵図は木版印刷で，大阪にあった諸藩の蔵屋敷を地図に示したものです。萩藩の蔵屋敷は現在の「土佐堀通」と「なにわ筋」の交差点近くにありました。長州米は「中国米」と称されて信用が高く，和紙，ろうなどとともに取引されました。



＊毛利家文庫　58絵図484「江戸桜田御屋敷之図」
萩藩毛利家は江戸・大阪・京都・長崎に藩邸（屋敷）をもち，江戸藩邸は上屋敷が桜田（現在の日比谷公園北部），下屋敷が現在の東京ミッドタウン・檜町公園あたり（港区赤坂）にありました。
京都藩邸は現在の京都ホテルオークラのところ（中京区河原町），伏見藩邸は京橋（伏見区表町），長崎蔵屋敷は新町にありました。
なお，現在の東京六本木ヒルズ内の毛利庭園は，支藩である長府藩の上屋敷があったことによるものです。